

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【工業／情報技術基礎】

1. 対象（実施を想定する学校・生徒の実態の概要）

対象校の就職状況については有力企業からの求人倍率は8倍程度（県平均の約4倍）、進学については大学進学希望者の8人に1人が国立大学に合格している実績を有する。将来のスペシャリストを目指し、国家資格や検定にも積極的に挑戦し、多くの生徒が合格している。対象クラス（機械科）の生徒はどの教科に対しても真面目であり、授業への取り組みは意欲的である。理解力が高く、工業的な思考力・判断力を身につけた生徒がいる一方で基本的知識の定着がやや不十分な生徒もいる。前回までの授業で、知的財産権について理解することができた。生徒の多くは携帯情報端末を所持し、そのほとんどがスマートフォンである。使用に当たっては、個人情報の扱いに注意し、他人に迷惑をかけるような情報を流通させない、使用時間のコントロールができる生徒がいる反面、「ネット依存」の状態に陥ったり、個人情報の流出等に至ってしまう生徒もいる。本時では、携帯電話やスマートフォンを取り上げ生徒が主体的に取り組む、対話と思考を通して解決していく授業を行っていく。

2. 単元名「情報科社会の権利とモラル」（全〇時間）

教材：教科書「情報技術基礎 新訂版」（実教出版）、ワークシート等

3. 単元で育成すべき資質・能力の三つの柱につながる単元の評価規準

①知識・技術	・情報社会の権利とモラルについて情報化の進展が産業社会に及ぼす影響などを踏まえて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
②思考・判断・表現	・情報の収集や発信の際の責任、情報を取り扱う際の留意点に着目して、情報社会の権利とモラルに関する課題を見いだしているとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善している。
③主体的に学習に取り組む態度	・情報社会の権利とモラルについて自ら学び、情報及び情報手段の活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

4. 本時の目標

- ・個人情報、知的財産権、プライバシー保護など法律やルールについて理解することができる。
- ・自分と他人の権利を守ることやモラルの重要性を理解することができる。
- ・コミュニティサイトを活用する場合の危険性や利用者に必要な心構えについて考えをまとめることができる。

5. 授業展開【 **本時** ・ 単元 】

解決したい課題や問い
携帯電話やスマートフォンを利用するにあたり大切なことは何ですか。また、それはなぜですか？

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C
「個人情報について考えよう」 個人情報の漏えいによる被害事例について示した資料 ※意図的に顧客情報を流出した個人情報漏洩の実状と被害	「携帯電話の利用について考えよう」 ネット依存の身体的影響について示した資料 ※ネット依存の実例や心身、生活への悪影響の実事例	「SNSの利用について考えよう」 SNSの利用における被害（消費者トラブル、悪用された事例等）について示した資料 ※SNSを起因とした消費者トラブルの実被害
想定される活動	想定される活動	想定される活動
Q1「個人情報とは何か」を考え、まとめる。 Q2「プライバシーの権利とは何か」を考え、まとめる。	Q1「携帯電話依存症とは」を考え、まとめる。 Q2「携帯電話依存症の問題点とは」を考え、まとめる。	Q1「SNSとは」を考え、まとめる。 Q2「SNSの問題点・危険性とは」を考え、まとめる。
3種類のエキスパート活動用資料からQ1、Q2に要点を絞り焦点化するとともにジグソー活動の発表資料として活用する。		

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

対話の方法

【エキスパート活動】（12分）

- ・与えられた材料A、B、Cについてpoint1、2及び問題1、2を確認したり、相談したりしながらワークシートにまとめ、説明できるよう準備する。

A：「氏名、住所、生年月日とか個人を特定できるのが個人情報だよな。」

「他人に知られたくない情報を知られない権利がプライバシーの権利かな？」

B：「携帯電話をずっと手放さないでいることかな？」「夜遅くまで利用して寝不足になるよね。」

C：「インターネットでの人との交流ができるサービスだよな。」「SNSで知り合った人って信用できるかな？」

【ジグソー活動】（12分）

- ・ジグソー活動を行う班（A、B、C混合班）において発表する。他者の意見を聞き対話を通して理解を深め、自己の考えを形成する。

「個人情報が流失すると、名前が晒されたり、クレジットカードの不正利用されたりするよね。」

「集中力が無くなったり、鬱病やパニック障害になることもあるらしいよ。」

「利用するときのモラルが必要だよな。」「自分と他人の個人情報を守ることも大切だよな。」

「他にも権利があるよね。」

【クロストーク活動】（12分）

- ・各グループによる話し合いの過程やまとめた見解を発表しあう。他者への効果的なアドバイスを探しながら、問いに対する回答を導き出す。

「迷惑メールは無視するか、キャリアの迷惑メール対策機能を使うことかな。」

「個人情報が晒されたり、犯罪にあったら警察に相談。」「ポケットパックを少ないものにする。」

「食事中やトイレ等では使用しない、手の届くところにスマホを置かないとかすればいいんじゃないかな。」

「カウンセリングを受けることも必要だよな。」

思考のプロセス

【複数論拠に基づいた自信をもった主張】

複数の事例や自分が持っていなかった視点を含む論拠に基づき、主張し合ったり、互いに質問し合ったりすることができる話し合いを引き出す。

【多様な見方・考え方にに基づく判断】

既に持っている情報のみで判断するのではなく、多様な見方や考え方を比較・統合して考えを深めていく。

【具体的な提案や新たな課題への気づき】

自信を持って主張できる論拠をもとに質問し合ったり、他者の考えにヒントを得たりする過程で自分の考えが整理され、具体的な提案を行ったり、新たな課題を発見したりする。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

「個人情報保護法についてしっかり理解するとともに、他者への被害や自身の精神的、身体的な影響を考慮して、適度な活用に心がけることが大事である。」

- ・（エキスパート活動）各テーマについて配布資料（被害事例）を基に、他者の意見を取り入れながら、理解を深めようとしている。
- ・（ジグソー活動）エキスパート学習で得た知識を活用し、権利やモラルの重要性に触れながらワークシートにまとめ、発表するなど表現できている。
- ・（クロストーク活動）携帯電話やスマートフォンの危険性を考慮して、適切に活用するにはどうしたらよいかをまとめ、発表するなど表現できている。